

養食 教文庫

6社編集長が本気で推す

コラボフェア 2025



朝日文庫



角川ソフィア
文庫



河出文庫



中公文庫



ハヤカワ・
ノンフィクション
文庫



平凡社
ライブラリー

もくじ

ごあいさつ	04
各レーベル紹介	06
フェア書目一覧	19
連絡先一覧	68

携帯電話や腕時計からも次々と情報が届く時代ですね。時には、もしかしたら真実と思わせたいただけかもしれない、感情に強く訴えかけるような言説も紛れているようです。

この言葉は本当に信じていいのか？

自分でそれら一つ一つをかきわけ、

選びとりながら、歩んでいかねばなりません。

でも大丈夫です、本はいつだって教えてくれます。

自分より遥かにたくさん学んだ、

すごいことに気づいてしまった古今東西の先人たち、

あるいは未来を先取りする令和を生きる人たちが、

たくさんのお書物を書き残してくれているのですから。

きっとそれらが生きていくための考える素、
ヒントを授けてくれるはずです。

各社文庫が合同で、

読者の皆さまにお届けしてきた「教養文庫フェア」は、
少しずつ形を変えながら昨年は10周年の節目を迎えました。

そして11年目となる今年は、

2つのレーベルが加わって、新たなスタートです！

各編集長が熱く推す、

たくさんのおすすめな文庫をぜひ読んでいただき、

心踊らせそして知恵をつけて、

この混迷の未曾有の情報時代を、

一緒に楽しく歩んでいきましょう。

朝日文庫



1977年の創刊以来、司馬遼太郎さん『街道をゆく』シリーズ、三浦綾子さん『氷点』、長谷川町子さん『サザエさん』シリーズなど時代に応じ長く愛される作品を刊行してきました。新聞社系版元としてノンフィクションやエッセイのベストセラーが多いことも特徴です。2008年4月の朝日新聞出版設立以降は、書き下ろし小説を含むエンターテインメントにもより注力しています。今後も、「知性とエンタメ」を掲げ、皆様の生きる知恵となりそして楽しみとなるような文庫を出版して参ります。



水野朝子（みずの・あさこ）

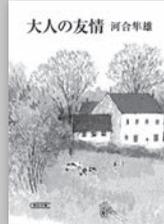
小説、エッセイなど文芸を主に担当してきました。
読者の皆さまと共にたくさん教養を深めたい所存です。



P. 48



P. 38



P. 26



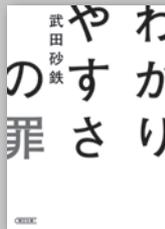
P. 61



P. 52



P. 51



P. 67



P. 62



P. 28



P. 21



P. 20



P. 46



P. 33



P. 32



P. 58



P. 47

角川ソフィア文庫



角川書店創業以来の伝統を受け継ぐ教養文庫レーベルです。日本文化やその歴史を伝える作品、私たちの心に深く語りかける東西の良質な作品を、読みやすく、美しい装幀で刊行することを目指しています。古典、詩歌、歴史、民俗など全14ジャンル。不朽の名著はもちろん、古典作品を原文と現代語訳と解説で読む〈ビギナーズ・クラシックス〉シリーズ、〈俳句歳時記〉、松岡正剛さんの〈千夜千冊エディション〉など、知的好奇心を刺激する多彩な作品をそろえます。1996年創刊です。



伊集院元郁 (いじゅういん・もとよみ)

角川選書や美術書も担当しています。
最近の趣味は、非英語圏のラップを聴くこと。



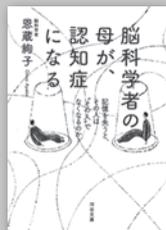
P. 37



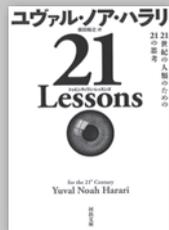
P. 27



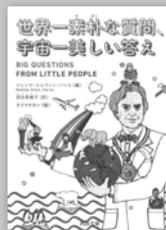
P. 25



P. 57



P. 54



P. 43



P. 64



P. 63

河出文庫



1980年創刊。現代小説のイメージが強いかもしれませんが、ドゥルーズ+ガタリやユヴァル・ノア・ハラリをはじめとする人文系や古典新訳コレクションなど、教養・学術ラインも粒ぞろいです。民俗学やポピュラー・サイエンスも充実してきました。文庫専門の編集部を設けておらず、守備範囲の異なる編集者たちが企画を自由に出し合う体制であることが大きな特徴。何が飛び出してくるか、企画会議が毎回楽しみです。今後も、「知のゲリラ」としての活動に、いっそうの磨きをかけたいと考えています。

藤崎寛之 (ふじさき・ひろゆき)

書店勤務を経て編集者に。
河出新書などで主に人文社会系の本を担当。ビール党。





P. 42



P. 36



P. 30



P. 60



P. 56



P. 45



P. 66



P. 65

中公文庫



1973年6月に創刊の中公文庫は、2023年創刊50周年を迎えました。学術・教養から文芸・エンターテインメントまで幅広いジャンルにわたって、約7000点超の作品を刊行して参りました。これからも読者の皆様に知的な愉しみを提供させていただくことを第一義に、時代にシンクロしつつも不変の価値をも追い求める、魅力溢れる文庫への成長を目指し、日々努力して参りたいと思います。なおシンボルマークの摩訶不思議なイラストは建築家・白井晟一氏によるもので、創刊以来ずっと使用され続け、皆様に愛されております。

太田和徳（おおた・かずのり）

人文系出版社を渡り歩いて入社。
中央公論編集部、新書編集部を経て文庫編集部へ。

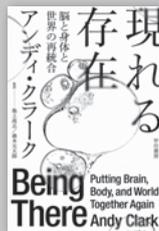




P. 31



P. 23



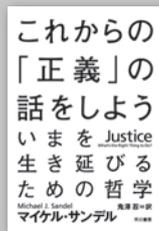
P. 22



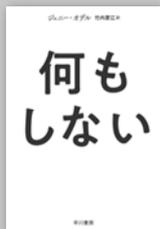
P. 40



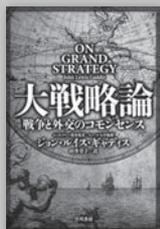
P. 39



P. 34



P. 55



P. 49

ハヤカワ・ノンフィクション文庫



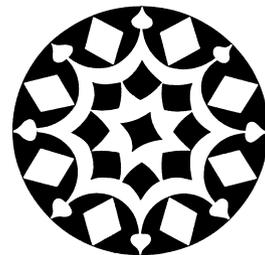
1977年刊行開始。行動経済学の祖カーネマンやハーバード白熱教室で知られるサンデル、また〈数理を愉しむ〉シリーズなど、経済学や哲学、サイエンスを軸に、世界の最先端の知を分かりやすく説いた作品を展開中。ノーベル賞受賞者の著作も幅広く取り揃えている。文庫編集部は設けておらず、編集者各自が単行本・新書を編集する傍ら、自由に文庫企画を出し合うというスタイル。月イチの企画会議では、「こんな隠し玉もってたんか」と驚嘆と羨望交じりの声飛び交うことも。文フリから埋もれた絶版本まで、涉猟の場は拡大している。

山本純也 (やまもと・じゅんや)

2020年に入社。守備範囲は現代思想、認知科学。好きな小説家はバルザック、干川あがた、ジュリー・オオツカ、ハン・ガンなど。



平凡社ライブラリー



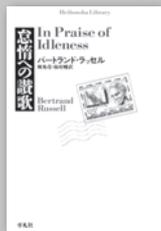
P. 35



P. 29



P. 24



P. 50



P. 44



P. 41



P. 59



P. 53

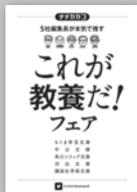
文庫判より少し大きめの判型で1993年に創刊。ロングセラー『増補 無縁・公界・楽』『ジェンダーと歴史学』や、長大な『中世思想原典集成 精選』、また新視点のアンソロジー『レズビアン短編小説集』『病短編小説集』など、思想・哲学・歴史・文学の分野を問わず、古今東西の名著を刊行してまいりました。今年は刊行1000点を突破(予定)。「本棚に入らん!」とお叱りを受けることもしばしばですが、その分、カバーも中身も個性豊かな本がそろっています。ぜひお気に入りの1冊を見つけていただければ幸いです。

岸本洋和 (きしもと・ひろかず)

京都の古美術商勤務を経ていまの会社へ。
新書、文芸、写真集、詰将棋の本など諸々つくっています。



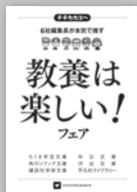
第1回



第2回



第3回



第4回



第5回



第6回



第7回



第8回



第9回



第10回



各文庫編集長が本気で推す48冊

フェア書目一覧

(書名アイウエオ順)



【じっくり】もう1冊! は、当該の文庫レーベルからおすすめの関連書を選んだものです。



悪文 伝わる文章の作法

岩淵悦太郎〔編著〕

角川ソフィア文庫 ◆ 本体800円+税 978-4-04-400081-3

**悪文を、国語学者がばつさり添削
巻末の「五十か条」は座右に必携**

新書のベストセラー『日本語の大疑問』の編者としても注目を集める国立国語研究所。遡ること半世紀以上前、当時の研究所メンバーが分担執筆したのが本書だった。身の回りの文章を集め、「この文章のわかりにくさはどこから来るのであろうか」という視点で添削していく。文章のプロの中には、巻末の「悪文をさけるための五十か条」をラミネート加工して座右に置く人もいるそうだ。

他社編集長から

豊富な悪文の例を追っていくだけでも楽しめる。語順を入れ替えることで多義性が消滅する指南は、翻訳書の校正に大いに役立つだろう。

(平・岸本)



「じっくり」
もう一冊!

柳父章『日本語をどう書くか』



あなたに語る 日本文学史

大岡信

角川ソフィア文庫 ◆ 本体1,650円+税 978-4-04-400783-6

**秀でた詩歌を生み出したのは
いつも「政治の敗者」たちだった**

文学史は、書き手によってさまざまな光の当て方がある。詩人であった大岡信が注目したのは、「だれが詩歌を愛でたか」であった。万葉集や古今和歌集のときからすでに、文学の担い手は「政治の敗者」たちだった。平安の女性貴族たちの日記、閑吟集や梁塵秘抄など、政治から離れたところで自然を愛し、恋心を歌うのが日本の詩歌である。大岡詩観にもとづく、享樂的日本文学史。

他社編集長から

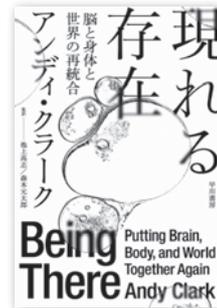
詩歌を中心に日本語の可能性を探りつつ、日本文学の豊かさを生き生きと語り、文学史を編み直す。日本人の感性についても深く考えさせられる。

(早・山本)



「じっくり」
もう一冊!

松岡正剛『千夜千冊エディション 日本的文芸術』



現れる存在 脳と身体と世界の再統合

アンディ・クラーク
池上高志・森本元太郎【監訳】

ハヤカワ・ノンフィクション文庫 ◆ 本体1,580円+税 978-4-15-050591-2

生成AI、深層学習、人工生命……
すべてはこの本から始まった！

ゴキブリが外敵に見つかった際に、瞬時に最適な判断を下して身を潜めることができるのはなぜか。環境に応じて粘菌アメーバが集合体になるとき、個体の内外では何が起きているのか。生命の「心」は、脳の中に閉じた形で存在しているのではない。ロボットや赤ちゃん、微生物など豊富な事例を交えながら提起する、「心」への斬新なアプローチ。認知科学の記念碑的名著。

他社編集長から

心とは何か、と考えるための新たな古典。人工の知性や身体が日常に溶け込んでいく近未来、私たちは本書の読み方を繰り返して再発見していくのだろう。
(角・伊集院)

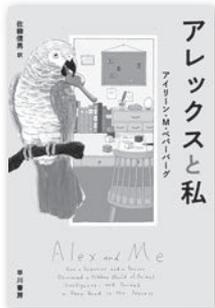


「じっくり」
もう一冊！

📖 ホーキンス&ブレイクスリー『考える脳 考えるコンピューター (新版)』

アレックスと私

アイリーン・M・ペーパーバーグ
佐柳信男【訳】



ハヤカワ・ノンフィクション文庫 ◆ 本体860円+税 978-4-15-050564-6

世界一賢いヨウム、アレックス
彼が人間に遺したものは

ヒトと動物は、人間の言葉を使って会話できるのか？ はるかな目標を掲げた研究者が出会ったのは、のちに「天才」と呼ばれることになる一羽のヨウムだった。一〇〇以上の語彙を獲得し、知性と個性的な性格で世界中を魅了したアレックスが、「アイ・ラブ・ユー」の言葉をのこしてこの世を去るまでの波瀾の三〇年を綴った、感動の科学ノンフィクション。

他社編集長から

今も昔も、若い研究者をとりまく環境は厳しい。著者がアレックスと過ごした三〇年間は、羽のはえた愛すべき戦友との共闘の道でもあった。
(中・太田)



「じっくり」
もう一冊！

📖 クライブ・ウィン『イヌはなぜ愛してくれるのか』



FBI捜査官が教える「しぐさ」の心理学

ジョー・ナヴァロ／マーヴィン・カーリンズ
西田美緒子〔訳〕

河出文庫 ◆ 本体950円+税 978-4-309-46380-3

他社編集長から
顔から最も遠い足&脚に表れる心理が特に興味深い。時々登場する著者の実例(犯人の嘘を暴いた等)が圧巻で、本書の説得力になっていました。

(朝・水野)



「じっくり」もう一冊!

📖 ナヴァロ『FBI捜査官が教える「しぐさ」の心理学 解説編』

残念ですが……しぐさは正直!
言葉ではウソをつけても、しぐさまででは気が回らない。さまざまな心の動きは、ついついしぐさに現れるものだ。顔の表情から身振り、体の動き、姿勢、声のトーンなど、意思や感情を伝えるノンバーバル(非言語)コミュニケーションの元祖にして超ロングセラーの名著。観察眼を磨くためにも、スパイ防止活動特別捜査官だった著者の説得力はとてつもなく強烈である。

異形の王権

網野善彦



平凡社ライブラリー ◆ 本体1,200円+税 978-4-582-76010-1

絵画資料から日本中世・近世史を読み解く

日本社会の大きな転換点を南北朝期とし、「異形の王権」を築こうとした後醍醐天皇が果たした役割を探る。「異類異形」と呼ばれて差別された人々がその体制下に多く存在したことを指摘しつつ、第一・二部では、絵巻物にみられる摺衣や蓑笠といった服装、扇や飛礮などの道具に着目し、これらの人々が室町期までは差別・賤視される存在とはなっていたことも解き明かす。

他社編集長から
「異形」の力を王権に取り込んだ後醍醐天皇を描く表題作は、力強い筆致に引き込まれる。異論もあれど、今も多くの読者を魅了する理由がよくわかる。

(中・太田)



「じっくり」もう一冊!

📖 佐藤進一／網野善彦／笠松宏至『日本中世史を見直す』

大人の友情 河合隼雄



大人の友情

河合隼雄

朝日文庫 ◆ 本体680円+税 978-4-02-264432-9

大人になるほど難しい 友達のこと

友人の出世を喜べるか？ 人はなぜ裏切るの？ 男女、上司と部下の友情とは？ 臨床心理学の第一人者が、日本社会の人間関係のあり方をも分析しながら、豊富な経験と古今東西の文学作品も用いてときほぐす画期的な友情論。綺麗事はなく、ときにはさっぱりと割り切ることを勧めながらも心に染み入る言葉の連続で、人間関係に悩んだとき何度でも読み返したくなります。

他社編集長から

漢方薬のような文章。読んでいるだけで心がじんわり温まり、助言が体の奥深くまで沁み込みます。しばらく会ってない友人に、久々に連絡しようかな。

(早・山本)



「じっくり」もう一冊！

河合隼雄／鷺田清一『臨床とことば』

快感回路

なぜ気持ちいいのか
なぜやめられないのか

デイヴィッド・J・リンデン
岩坂彰[訳]



河出文庫 ◆ 本体880円+税 978-4-309-46398-8

「快感」と、そのダークサイドにある 「依存」のしくみを科学的に説明

セックス、薬物、アルコール、高カロリー食、ギャンブル、買い物、瞑想、慈善活動、神秘体験、痛み……なぜハマってしまうか？ なぜわかっちゃいるのにやめられないのか？ 誰もが他人事とは思えない、興味深いエピソードと多様な実験シーンをふんだんに盛り込みながら、快感と依存のしくみを徹底説明。否が応でもわかってしまう—— 私たちはこういうふうにできている……

他社編集長から

記憶と快感、そして依存症をめぐる摩訶不思議なメカニズムを平易に解説。思い当たるエピソードの連続で、ページをめくる手が止まらない。

(中・太田)



「じっくり」もう一冊！

スタンレー・ミルグラム『服従の心理』



増補 近代の呪い

渡辺京二

平凡社ライブラリー ◆ 本体1,600円+税 978-4-582-76958-6 ㊤

個人商店は楽しい。セレブは虚飾。自動開閉する便座は無意味だ……。語りの端々に思想家の歴史観を支える生活への眼差しを感じられるのも楽しい。(角・伊集院)

他社編集長から

衣食住の質が飛躍的に向上し、人権・自由・平等をもたらした近代という時代。しかし、我々は本当に豊かになったのだろうか？ 近代化の歴史の意味を問いかけつつ、恩恵と引き換えに人々に課せられた「ふたつの呪い」について思考をめぐらせる講義録。利便性を必要以上に重視し、ナシヨナリズムへ向かう世界に警鐘を鳴らしつつ、来た新しい時代をどう生きるべきかを語りかける。



「じっくり」もう一冊！

📖 渡辺京二『逝きし世の面影』

カウンセリングを語る

河合隼雄

角川ソフィア文庫 ◆ 本体1,560円+税 978-4-04-400814-7 ㊤



共感する、型にはめない、更に底にあるものを見る、対等に立つ、自分を鍛える……。カウンセリングの傾聴の深さ複雑さの一端に触れられる名著でした。(朝・水野)

他社編集長から

「心のケア」が叫ばれて久しいが、人の心を他人が治すことは簡単でない。というより、治せはしない、心はおのずから治る。そのために人は何ができるか……。河合隼雄は、すべては「聴く」ことから始まると強調した。しかし彼の「聴く」は私たちの「聴く」とはだいぶ異なっているようだ。カウンセリングの基本は、人間関係の基本でもあるかもしれない。優しく力強い一冊。



「じっくり」もう一冊！

📖 鷺田清一『大事なものは見えにくい』



言語が違えば、 世界も違って見えるわけ

ガイ・ドイッチャー
棕田直子〔訳〕

ハヤカワ・ノンフィクション文庫 ◆ 本体1,180円+税 978-4-15-050586-8



軍国日本の興亡 日清戦争から日中戦争へ

猪木正道

中公文庫 ◆ 本体900円+税 978-4-12-207013-4

中

早

書名の問いに答える、とくに実験によるアプローチが知的に面白いだけでなく、研究の姿勢が歴史的転換を経ることで研究そのものも前進する様にグッとくる。(河・藤崎)

他社編集長から

古代ギリシャ人は世界がモノクロに見えていた？前後左右にあたる語を持たず東西南北で位置を伝えるグリーグ・イミディル語話者の「絶対方位感覚」とは？ ドイツ人にとって、男性名詞「リンゴ」は男らしい？ 言語が認知に与える驚くべき影響を豊富な実験から解き明かした、傑作ポピュラーサイエンス。巻末解説は『言語の本質』共著の今井むつみ先生。

コトバとココロをめぐる
言語学の冒険！



「じっくり」
もう一冊！

📖 マーク・チャンギージ 『ヒトの目、驚異の進化』

他社編集長から

清国や韓国では起きなかった全域的な近代化（そして軍国化）に、なぜ日本は成功したのか。「自爆戦争」にいたる道筋はそのままだ現代にも通じている。(早・山本)

戦前・戦中の日本を支配した「軍国主義」と、戦後に根を張った「空想的平和主義」。国際社会で尊敬される構成員であるためには、そのどちらも克服されなくてはいけないと、日清戦争から日中戦争までの道のりを透徹した歴史観によって辿る。軍国日本はなぜ、全世界を敵に回す「自爆戦争」に至ったか。政治学の碩学が自らの精神形成期を回顧した「軍国日本に生きる」も必読。



「じっくり」
もう一冊！

📖 田中美知太郎 『戦争と平和』



ことばの歳時記

山本健吉

角川ソフィア文庫 ◆ 本体 880円+税 978-4-04-400217-6

上皇陛下と上皇后陛下も音読 「ことば」として季語をみつめる

たとえば、歳時記でよく言われる「季語と現実のちがひ」。立春を過ぎれば「春」というお約束だが、外はまだまだ寒い。山本健吉はこれを「日本人らしい気の早さ」としつつも、春を待ち焦がれる期待のあらわれだという。季節のことは単に事実を示す名ではなく、人々の想いがこめられたものだ。季語や詩歌を通して語られる景色が、時に現実よりも鮮やかに、深々と胸に迫る。

他社編集長から

俳句は独りでなすものではなく、季は「共同性の結び目」であるという。短いのは補って理解してくれる相手がいるから。季語が大切な理由が初めてわかった。(河・藤崎)



「じっくり」
もう一冊！

角川書店 [編] 『俳句歳時記 第五版 春』

古墳とはなにか
認知考古学からみる古代
松木武彦

古墳とはなにか 認知考古学からみる古代

松木武彦



角川ソフィア文庫 ◆ 本体 1,040円+税 978-4-04-400763-8

日本列島には、なぜこれほど 大きな古墳がたくさんあるのか？

日本に古墳がいくつあるかご存じだろうか？ 実は約一六万基、コンビニの数より多いという。ピラミッド、始皇帝陵と並ぶ「世界三大墳墓」といわれる仁徳天皇陵の墳丘の長さは四八六メートル。こんな建造物がなぜ五世紀に造られたのか。謎を解く鍵は、人の「心の動き」にあった。古代人たちは巨大な墳丘を見上げ何を感じていたのか——。古代史の謎を「認知考古学」が解く。

他社編集長から

前方後円墳はどうしてあの形をしているのか。謎に満ちた古墳の変遷を、地域、時代ごとの人々の思考を推し量りながら進むダイナミックな論述が魅力的。(中・太田)



「じっくり」
もう一冊！

若狭徹 『埴輪 古代の証言者たち』



山海経 中国古代の神話世界

高馬三良〔訳〕

平凡社ライブラリー ◆本体854円+税 978-4-582-76034-7

これからの
「正義」の
話をしよう
いまを Justice
生き延びる
ための哲学
Michael J. Sandel
マイケル・サンデル

これからの 「正義」の話をしよう いまを生き延びるための哲学

マイケル・サンデル
鬼澤忍〔訳〕

ハヤカワ・ノンフィクション文庫 ◆本体900円+税 978-4-15-050376-5

早

累計100万部突破!

いまこそ「正義」を学ぶとき

「1人を殺せば5人が助かる。あなたはその1人を殺すべきか?」正解のない究極の難問に挑み続ける、ハーバード大学の超人気哲学講義「JUSTICE」。経済危機から大災害にいたるまで、現代を覆う苦難の根底には、つねに「正義」をめぐる哲学の問題が潜んでいる。サンデル教授の問いに取り組むことで見えてくる、よりよい社会の姿とは? 社会現象を巻き起こした大ベストセラー。

他社編集長から

数々のエピソードが倫理学の言葉で整理されていく。直感と論理の間を行き来するうちに新しい風景が開けてくる興奮は、考えることの快楽そのものだ。
(角・伊集院)



「じっくり」
もう一冊!

マイケル・サンデル『実力も運のうち 能力主義は正義か?』

中国古代の人々が思い描いた 世界観といかなるものか

戦国時代以前から、いくつかの段階を踏んで成書されたと考えられる、中国古代の人々の観念世界が垣間見える「奇書」。山経・海内経・海外経・大荒経全一八編からなり、南・西・北・東の順に中華世界の中心から周縁へと拡散させながら、霊山や河川、植物、そこに棲む神霊・神獣のほか、人面虎身の怪獣や胸に穴のあいた異形の人びとなど、怪力乱神たちを紹介・解説する。

他社編集長から

魑魅魍魎が跋扈する世界。日本の妖怪のルーツもここにあるのかも……と思っていたら、解説で水木しげる先生がまさにこの点について語ってくれた。
(早・山本)



「じっくり」
もう一冊!

劉向／葛洪『列仙伝・神仙伝』



史上最強の哲学入門 東洋の哲人たち

飲茶

河出文庫 ◆ 本体920円+税 978-4-309-41481-2

東洋哲学の宇宙を縦横無尽に旅し、そのエッセンスを具体的なエピソードとともに明快に紹介する。まさに快刀乱麻。「奇蹟の入門書」の名に偽りなし。

(早・山本)

他社編集長から



「じっくり」
もう一冊!

📖 飲茶『史上最強の哲学入門』

自殺論

デュルケーム
宮島喬[訳]



中公文庫 ◆ 本体1,500円+税 978-4-12-206642-7

一九世紀ヨーロッパの統計を分析
何が自殺に向かわせるのか

ヴェーバーと並ぶ社会学の祖デュルケームが本書を刊行したのは一八九七年。二〇世紀の幕開けを前に都市化の進む西洋諸国において、いかなる社会状況が人を自殺へ向かわせるかを考察した。圧倒的な統計資料、一貫した手法によって導かれる論の力強さが快い。帯で内田樹氏が「社会学的知性のみごとな実例」と評しているとおり、社会学の礎を築いた名著としての風格を感じる一冊だ。

他社編集長から

社会の構造に着目して自殺を論じた不動の古典。自殺抑止の処方箋が、家族でも宗教でもなく職業生活の組織化に託されている点に改めて注目したい。

(角・伊集院)



「じっくり」
もう一冊!

📖 エリザベス・キューブラー・ロス『死ぬ瞬間』

本多勝一

〈新版〉
実戦・日本語の作文技術

新版 実戦・日本語の作文技術

本多勝一

朝日文庫 ◆ 本体620円+税 978-4-02-261964-8

「」の位置で文章は変わる
 文才ではなく技術を身につける

作文や感想文は宿題に出るのに文章の書き方は案外教わることはないし、近年ブログやSNSの普及で文章を書く機会は増えていきます。本書は三〇年来のベストセラー続編ですが、文章の「内容」とは関係なく一読して意味のとれる文章の書き方を指南してくれます。新聞記者の著者が見つけた様々な悪文の添削実例は大変具体的。読点の使い方、そして修飾語・節の順番がポイントです！

他社編集長から

お仕着せの教則本と一線を画すのは、書き手の批判精神。日本語でどこまで論理的な文章を書けるか、その限界を検証するような緊張感が心地よい。
 (角・伊集院)



「じっくり」もう一冊！

📖 高橋源一郎『間違いだらけの文章教室』

知ってるつもり 無知の科学

ステイブーン・スローマン/
 フィリップ・ファーンバック
 土方奈美[訳]

知ってる
 つもり
 無知の科学

STEVE BURNSTON・PHILIP FARNBACK
 乱歩書房



乱歩書房

ハヤカワ・ノンフィクション文庫 ◆ 本体1,000円+税 978-4-15-050578-3

賢さとは何か
 常識を覆し、知性の本質に迫る

自転車の仕組みを説明できると思いこむ。政治に対して極端な意見を持つ人ほど政策の中身を理解していない。その一方で、人類が高度な文明社会を営めるのはなぜか？ 気鋭の認知科学者コンビが行動経済学から人工知能まで、各分野の研究を駆使して知性の本質に迫る。「賢さ」の定義をアップデートし、各界からの絶賛を浴びた、デマが氾濫する現代の必読書。

他社編集長から

認知科学についてほとんど知ることがなかったが、本書を読んでこの学問分野の面白さを知りました。事例が興味深く、予備知識なしでも楽しめます。
 (中・太田)



「じっくり」もう一冊！

📖 リチャード・ドーキンス『神のいない世界の歩き方』



神学の思考 キリスト教とは何か

佐藤優

平凡社ライブラリー ◆ 本体1,080円+税 978-4-582-76935-7 ㊤



樹木たちの 知られざる生活 森林管理官が聴いた森の声

ペーター・ヴォールレーベン
長谷川圭[訳]

ハヤカワ・ノンフィクション文庫 ◆ 本体860円+税 978-4-15-050531-8 ㊤

早

樹木どうしが会話し助け合う!?
読んだら森を散策したくなる本

動物のように動かず、声を出さないため、モノ扱いされることすらある樹木。しかし、樹木には驚くべき能力と社会性があつた！子どもを教育し、コミュニケーションを交わし、ときに助け合う。一方で熾烈な縄張り争いを繰り広げる。音に反応し、数をかぞえ、長い時間をかけて移動させるのだ。ドイツの森林管理官が、豊かな経験と科学的事実をもとに綴る世界的ベストセラー！

他社編集長から

都内に生まれたいい、自然の音が聞こえない。負い目を感じてきたが、それこそ教養として知ってしまえばよいと気づかされた。木が無口ではなくなった。(河・藤崎)



「じっくり」
もう一冊！

📖 ペーター・ヴォールレーベン『後悔するイヌ、嘘をつくニワトリ』

神はいつたどこに居るのか？
キリスト教を知る最良の入門書

近代世界はキリスト教的な価値観に基づいて構築されている。その中で私たちはキリスト教を正しく理解できているだろうか？本書では、「イエス・キリストは本当にいたのか」「神はどこに居るのか」「なぜ世界には終わりが来るのか」といった問いに丁寧に応えながら、キリスト教神学の内在的論理に迫っていく。キリスト教徒でない人にこそ手に取ってもらいたい、最良の入門書。

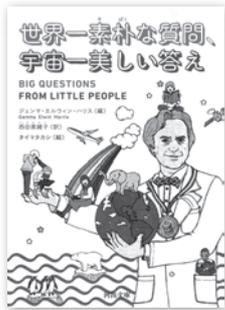
他社編集長から

読者の位置が絶妙に確保された神学入門。人間の知恵が及ばない領域を認めた先にあるか。信仰の有無にかかわらず、もう一つの思考の形へ誘ってくれる。(河・藤崎)



「じっくり」
もう一冊！

📖 小倉明彦『お血の上の生物学』



河出文庫 ◆ 本体900円+税 978-4-309-46493-0

世界—素朴な質問、 宇宙—美しい答え

ジェンマ・エルウィン・ハリス
西田美緒子[訳]/タイマタカシ[絵]

他社編集長から
「神様ってだれ?」「わたしはどうして退屈するの?」飾らない問いは詩のようだ。識者の名回答を読んだ後は、自分だけの答えを探してみたくなる。
(角・伊集院)



「じっくり」
もう一冊!

📖 『オックスフォード&ケンブリッジ大学 世界—「考えさせられる」入試問題』

数学と人間

遠山啓



中公文庫 ◆ 本体940円+税 978-4-12-207284-8

数学ぎらいの人こそ読んでほしい 数学の本質に触れられる本

「数学は自然や社会を反映する客観的な知識である」。天動説から地動説へ、ニュートン力学や産業革命、相対性理論……、科学や社会の大変革には、常に数学の発展が寄与していた。裏を返せば、数学上の進歩がなかった時代は、社会も文明も停滞していた。微分積分、関数、集合などが、どういふ技術と表裏をなしてきたのか。数学と人間の深い関わりを人類史的スケールで俯瞰する。

他社編集長から
安心したのですが公式はほぼ登場せず、数学の考え方が長い人類の営みの中どう生まれどんな意味を持つかがわかります。数学は哲学や人類学でもある。
(朝・水野)



「じっくり」
もう一冊!

📖 森毅/竹内啓『数学の世界』



戦後日記

三島由紀夫

中公文庫 ◆ 本体1,000円+税 978-4-12-206726-4



世界史のなかの昭和史

半藤一利

平凡社ライブラリー ◆ 本体1,000円+税 978-4-582-76905-0

無謀な戦争へ突き進んだ理由を 世界史の観点から探る

意外と知らない、日本が戦争に突き進んでいく過程がどう世界の歴史と絡み合っていたのか。極東の持たざる国は、欧米列強の政略や戦略に翻弄され、戦争回避の機を逃した。一方、この国の指導者には世界史的視座が足りなかったがゆえに、あの無謀な戦争へと突き進んでいった——。ヒトラー、スターリン、ルーズベルトらが動かした知られざる歴史を、「歴史探偵」が解き明かす。

他社編集長から

……点の知識が大きな流れの中で繋がり、特に独ソ中との関係で日本が戦争に至る道が細部まで理解できます。私(達)は当時の「民草」と同じだという危機感も。(朝・水野)



「じっくり」もう一冊!

📖 半藤一利『日露戦争史』(全3巻)

どこから読んでも面白い

圧倒的な華麗なる日常の記録

三島由紀夫は戦後の二五年間を全速力で駆け抜けた人だ。その毎日は多忙を極めた。読んで、書いて、観て、肉体を鍛えた。あらゆることに一生懸命、真剣、真面目。そんな三島の二三歳から四二歳までの日記は読書記録であり、観劇録であり、交遊録であり、小旅行記であり、御馳走帖であり、すべてが詰まった最高の作品になっている。生誕一〇〇年/戦後八〇年の年に最適な一冊。

他社編集長から

……どうしても交友関係や人物評が楽しいのだが(その意味で人名索引がありがたい)、進める教養とともに、小説(家)とは何かと真摯に問う姿を垣間見た気がした。(河・藤崎)



「じっくり」もう一冊!

📖 大岡昇平『成城だより』



先住民から見た世界史 コロンブスの「新大陸発見」

山本紀夫

角川ソフィア文庫 ◆ 本体1,160円+税 978-4-04-400757-7 ㊦

**コロンブス、黒人奴隷、新大陸：
いま知っておかねばならない歴史**

著者は、アマゾンやアンデスで先住民とともに暮らした研究者。「コロンブスの贈り物」とも言われるジャガイモは、実は先住民が長い年月をかけて改良した農作物だった。コロンブス以後、ヨーロッパの富のため、「新大陸」に牛馬やサトウキビ、アフリカ人奴隷が送り込まれる。住処を追われた先住民は生活を失い、虐殺や疫病で大量死した。それは偉業だったのか、侵略だったのか。

他社編集長から

アメリカ大陸で改良されたトウモロコシなどがもたらしたヨーロッパ世界の繁栄、疫病による急激な人口減少……。「コロンブスの交換」の功罪を問う。

(平・岸本)



「じっくり」
もう一冊!

川田順造『アフリカの歴史』



新版 禅とは何か

鈴木大拙

角川ソフィア文庫 ◆ 本体760円+税 978-4-04-407602-3 ㊦

**禅とは、仏教とは、宗教とは……
禅者の息づかいに触れる講演録**

一九二七、二八年になされた全一〇回の講演の記録。「宗教経験とは何か」「何を仏教生活というか」という基本にはじまり、主題は「神秘主義としての禅」へと至る。大拙の語りは、話題を繰り返し返しつつも「螺旋階段を上るように」（末木文美士「解説」）進み、気づかぬうちに読者をはるか高いところへと導いてしまう。世界に禅を伝えた鈴木大拙、その入門の一冊としてもおすすすめ。

他社編集長から

初心者向けの講義をまとめた入門書だが内容は深い。数年おきに読み直すと、その時の自分の状態に応じて理解度が変化しそ
うだ。

(中・太田)



「じっくり」
もう一冊!

鈴木大拙〔著〕/碧海寿広〔訳〕『禅と日本文化 新訳完全版』

大正天皇

原 武史

大正天皇

原 武史

朝日文庫 ◆ 本体900円+税 978-4-02-261827-6

著者の近代天皇制研究の原点 毎日出版文化賞受賞作

青年期の「行啓」「巡啓」をはじめとする各種記録を丹念に追い、政府によって半ば意図的に作りだされた風説に埋もれた、快活で家庭的だった大正天皇の素顔を明らかにした傑作評伝。その生涯をたどることで明治と昭和を含めた近代天皇制全体の見取り図が描き出されており、またじわりじわりと暗い影が差してゆく大正という時代全体を大きな視点で見渡せる一冊。

他社編集長から

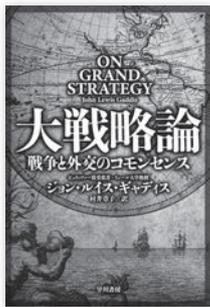
研究がほとんどなかったという大正天皇の生涯と素顔を明らかにした力作。精神を患っていたという「風説」と異なる天皇の潑刺とした姿に驚かされる。

(平・岸本)



「じっくり」
もう一冊!

森まゆみ『暗い時代の人々』



大戦略論

戦争と外交のコモンセンス

ジョン・ルイス・ギャディス
村井章子[訳]

ハヤカワ・ノンフィクション文庫 ◆ 本体1,300円+税 978-4-15-050589-9

イェール大学の人気講座を文庫化 予測不能な現代の羅針盤となる本

ベルシヤ戦争、ナポレオン戦争、第二次大戦など、歴史の大きな転換点において、卓越した指導者たちはどのような思考に基づき決断を下してきたのか? ピュリッツァー賞を受賞した冷戦史の権威による人気講座「グラランド・ストラテジー・プログラム」のエッセンスが一冊に。孫子、マキアヴェリ、リンカーンら古今東西のビジョナリーが共有する、歴史を貫く不変の法則がここにある。

他社編集長から

ベリクレス、孫子、リンカーン……。歴史上の名戦略家たちの時代の転換点における思考の事例から、不変の「グラランド・ステラテジー」の本質を知る。

(平・岸本)



「じっくり」
もう一冊!

ジェイムズ・スタヴリディス『海の地政学』



怠惰への讃歌

バートランド・ラッセル
堀秀彦・柿村峻〔訳〕

平凡社ライブラリー ◆ 本体1,500円+税 978-4-582-76676-9

勤勉は美德ではない！
すり減った心の代わりに幸福を

現代ではふつうの暮らしをしていく分には一日四時間働けば充分であり、余暇の時間にこそ、人間の創造性が傾けられねばならない——。円熟した分析哲学者が提唱する、新しい生き方のマニフェスト。余暇の時間になされるべきは何も学問とは限らない。ラッセルは言っている。片田舎で見かけた農夫のダンスを習いたいという衝動にこそ、人間の本性があると。

他社編集長から

労働は日に四時間、残りで幸福と歓喜を味わうという主題以上に広がりのある本。知識は「思索する心性を促す」から大切という一文が印象的でした。

(朝・水野)



「じっくり」もう一冊！

📖 ポール・ラファルグ『怠ける権利』



対談集 日本人への遺言

司馬遼太郎

朝日文庫 ◆ 本体650円+税 978-4-02-264180-9

このままではこの国は滅びる
各界の第一人者との最後の対談集

日本の現状に強い危機感を抱く司馬遼太郎が、田中直毅、宮崎駿、大前研一ら六氏と土地問題、国際化、文明と自然、異国などをテーマに語り合う。独自の史観をあますところなく披瀝、過去から未来への示唆に満ちた貴重な発言録。死去直前の二対談を含む。単行本は一九九七年刊行だが、長く読みつがれている作品。日本の歴史や風土と今の問題をどう切り結ぶか様々な視点が得られます。

他社編集長から

実に豪華な顔ぶれで、激動の時代にあった日本の実像を論じる。バブル崩壊後の国に行く末を案じていた著者は、今の日本を見たら何を語るだろうか。

(平・岸本)



「じっくり」もう一冊！

📖 司馬遼太郎／堀田善衛／宮崎駿『時代の風音』



哲学の冒険

生きることの意味を探して

内山節

平凡社ライブラリー ◆ 本体1,000円+税 978-4-582-76294-5



知の編集工学

増補版

松岡正剛

朝日文庫 ◆ 本体1,150円+税 978-4-02-262083-5

情報工学とは 情報を関係付けること

編集とは情報の出し入れの間の営みであり、編集工学という著者の造語は、情報社会をもっとおもしろく生きるための技法だという。二〇二四年に亡くなった著者の原点ともいえる著作の大幅増補版。一九九六年の初版刊行当時は普及しつづけたインターネットの情報術でもあっただろうが、それが当たり前になりSNSや生成AIを使いこなさねばならない今読むといっそう普遍性が浮かび上がる。

他社編集長から

編集を文明的スケールで探究した著者の代表作。「情報は情報を誘導する」という洞察は、生成AIが文章を綴る仕組みを見通したかのように先駆的だ。
(角・伊集院)



「じっくり」
もう一冊!

岡本裕一郎『いま世界の哲学者が考えていること』

美しく自由に生きるための学問 それが哲学だ!

これからどんな人生を歩んでいくべきか……? 受験、就職、出世の大切さを説かれた一五歳の「僕」が、本当の生き方を探すために頼ったのが哲学だった。父との対話によって紡がれる美しく平易な語り口により、ヘラクレイトス、ルソー、マルクスをはじめとする哲学者が「使える」思想として私たちの前に姿を現す、画期的な入門書。労働と自由について悩むあなたに。

他社編集長から

書名には「冒険」とあるが、著者は読者に寄り添いながら、哲学への道を一步步進めてくれる。中高生を視野に入れた丁寧な記述はありがたい。
(中・太田)



「じっくり」
もう一冊!

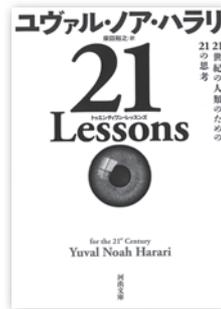
カール・マルクス『共産主義者宣言』



何もしない

ジェニー・オデル
竹内要江〔訳〕

ハヤカワ・ノンフィクション文庫 ◆ 本体1,060円+税 978-4-15-050604-9



21 Lessons

21世紀の人類のための21の思考

ユヴァル・ノア・ハラリ
柴田裕之〔訳〕

河出文庫 ◆ 本体1,200円+税 978-4-309-46745-0

現代の知の巨人による
「君たちはどう生きるか」

『サピエンス全史』で人類の「過去」を、『ホモ・デウス』で「未来」を描いた知性は、本書で人類の「今、ここ」に挑んだ。現代人が避けて通れない二つのテーマはどれも私たちに「どう生きるのか？」という問いを突きつけてくる。「戦争」の章ではこう言う、「人間の愚かさをけつして過小評価してはならない」。最新作『NEXUS』でもその警鐘の連打はやむことを知らないだろう。

他社編集長から

複雑に変わる世界でグローバルを考えながら個として生きていくことの途方のなさに目眩を覚えました。「瞑想」をして悲観的にならず立ち向かいます。

(朝・水野)



「じっくり」もう一冊！

ダートネル『この世界が消えたあとの 科学文明のつくりかた』

達成や成功が求められる現代
私たちはどう抵抗できるのか

SNSなど、「アテンションエコノミー」が跋扈する現代。そこから抜け出すために必要なのは、効率主義から離れてみることに――「何もしない」とだ。つながりを避けては生きられない時代に、自らにふさわしいあり方を見つけるヒントを明かす。アーティストであり作家である著者が、古今東西の芸術や思想の知見を駆使して綴る、新たなスタイルの自己啓発書。解説は小川公代先生！

他社編集長から

情報との接続を断つて「過剰な意義を様々な説くエッセイ。携帯を捨てなくても「今、ここ」を感じる意識の変化で達成できること」があると気付かされます。

(朝・水野)



「じっくり」もう一冊！

ジム・ホルト『世界はなぜ「ある」のか？』



日本建築集中講義

藤森照信・山口晃

中公文庫 ◆ 本体1,000円+税 978-4-12-207102-5

まじめな解説と絶妙な脱力感で 名建築の魅力を味わう見学記

日本一語りの巧い建築史家と、歴史や伝統も拔群の伎倆とユーモアで表現する稀代の絵師が、法隆寺、待庵、旧岩崎家住宅など時代も用途もさまざまな一三の名建築を訪問。専門的な解説に加え、センセイの鋭い観察眼が捉えた見どころや、画伯が見出す美とほころびの面白さに驚き、爆笑必至。文庫版特別付録「平野家住宅」では、センセイも現存していることに驚いた一〇〇年前の建築を紹介。

他社編集長から

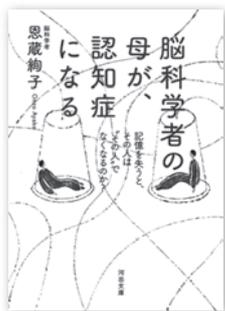
法隆寺から聴竹居まで、古今一三の建築を阿吽の呼吸で語り合う名対談（山口晃さんの漫画も嬉しい）。大好きな修学院離宮が入っているのがうれしい。

（平・岸本）



「じっくり」
もう一冊！

📖 和辻哲郎『桂離宮』



脳科学者の母が、 認知症になる

記憶を失うと、その人は
“その人”でなくなるのか？

恩蔵絢子

河出文庫 ◆ 本体690円+税 978-4-309-41858-2

「その人らしさ」とは何か—— 脳の見方を一変させる記録と考察

NHKスペシャル『認知症の母と脳科学者の私』でも話題になった本書は、六五歳でアルツハイマー型認知症と診断された母親の日常生活を、二年半にわたり記録し、その変化を脳の仕組みから考察する。その過程で著者は、何かをできなくなること、記憶を失っていくことは、その人らしさを失うことか？ という問いに対峙する。認知症のみならず、私たちの脳の見方も一変させる本だ。

他社編集長から

今は亡き祖母に対する自分の態度を後悔してしまふほどに、生々しい日常が綴られる。愛する人の不合理な行動に向き合う著者の姿に、思わず涙した。

（平・岸本）



「じっくり」
もう一冊！

📖 リンデン『40人の神経科学者に脳のいちばん面白いところを聞いてみた』



B面昭和史 1926-1945

半藤一利

平凡社ライブラリー ◆ 本体1,000円+税 978-4-582-76671-4

はじめての 王朝文化辞典

川村裕子[著]／早川圭子[絵]

角川ソフィア文庫 ◆ 本体1,450円+税 978-4-04-400255-8



角

著者の一連の昭和史の凄さは、読んで面白いこと。B面とはつまらぬことの集まりではなくやがてそちらがA面になると予感させる。実際そうなりつつある。(河・藤崎)

他社編集長から

危機がおおられ、人々が大勢順応的になって戦争へ向かったあの時代。集団主義への傾倒が著しい現代日本の状況は、どこかこの本で書かれた空気に似てはいないだろうか。「人間が断々乎として、無謀で悲惨な殺し合いを拒否する意思を保たなければ、歴史はくり返すというほかはない」というあとがきの言葉は、戦争が止まない今の世界にも繰り返し訴えるべき言葉だろう。



「じっくり」
もう一冊!

半藤一利『墨子よみがえる』

狩衣、牛車など各項目の成り立ちや意味を教わり古典文学がぐっと立体的かつ身近になりました。読者を脱落させまいとする先生の語りかけが優しい。

(朝・水野)

他社編集長から

「源氏物語」や「枕草子」に登場する王朝貴族は、どんな空間で、どのような意識をもって暮らしていたのか。部屋の間仕切りは、中央から遠い順に、格子↓御簾↓屏風↓几帳↓御帳台とランク付けされる。では、箏、琴の琴、和琴の違いとは？ 平安時代の常識がわかると、古典作品はもっと楽しくなる。知っているようで知らない古典の基礎知識を美しい挿絵とともに読む入門書。



「じっくり」
もう一冊!

与謝野晶子[訳]『与謝野晶子訳 紫式部日記・和泉式部日記』



翻訳教室

柴田元幸

朝日文庫 ◆ 本体1,000円+税 978-4-02-264664-4

他社編集長から
柴田先生の翻訳の「回路」を、東大文学部での実践講義を通じて迎えます。ゲストに村上春樹とジェイ・ルービン。こんな贅沢な本、なかなかない！（早・山本）



「じっくり」
もう一冊！

📖 柴田元幸『生半可版 英米小説演習』

**翻訳の授業を通じて
読み方、書き方を教わる本**

東大文学部の実際の授業を完全文字化！ 九つの英米文学を題材に、柴田先生は一節ずつ学生と議論を深め、訳し、解説していく。翻訳は深く読むことという意味がよくわかり、またよりよい文章を書くための推敲の過程がリアルに体験できる。英語や翻訳の知識のみならず英語と日本語の言語の差異、単語一つから見える文化、作家の文体意識、創作の味わい方まで学びの多い刺激的な本。

本の神話学 増補新版

山口昌男

中公文庫 ◆ 本体1,200円+税 978-4-12-207408-8



書物の見えない関係を探る その解読の驚きと愉しみ

タイトルからは内容がわかりにくいかもしれない。本書の中心にあるのは、二〇世紀前半、美術史家アビ・ヴァールブルクの研究所がその後の人文知全体に与えた巨大な影響力だ。私的ライブラリー蔵書は時に、思いもよらない書物や人のつながりを発見する。著者はそれを「精神史」と呼んだ。本書が実践する読書術は、インターネット時代において、ますます身近かつ重要になっている。

他社編集長から
ある本に刺戟を受けたら原著者に猛烈に嫉妬せよ。縦横無尽の文献渉猟と引用の連続に眩暈を覚えつつ、読者に背伸びを促す書物本来の力を存分に体感できた。（河・藤崎）



「じっくり」
もう一冊！

📖 梅棹忠夫『文明の生態史観』



紫の火花

岡 潔

朝日文庫 ◆ 本体720円+税 978-4-02-262004-0

他や自分のところを知るために
「情緒」がわかるとよい

世界的数学者で作家、教育者としても大きな足跡を残した岡潔。著書の中で何度となく登場する「情緒」について説くほか「教育」「独創」「前頭葉」など、生きる際のこころと知性の在り様について独自の思想の深まりが記された一冊。一九六四年刊行の隠れた名著の復刊で、岡熙哉氏による「親父・岡潔の思い出」も必読です。

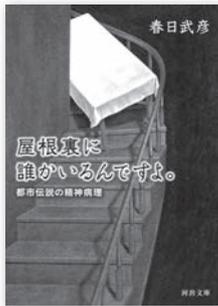
他社編集長から

中谷宇吉郎に招かれ札幌で過ごした夏の逸話が秀逸。情緒を存分に働かせた三月後、数学的天啓を得た経験に、岡が情緒を重視した理由が凝縮されている。(中・太田)



「じっくり」
もう一冊!

岡 潔 『岡潔対談集』



屋根裏に 誰かいるんですよ。

都市伝説の精神病理

春日武彦

河出文庫 ◆ 本体840円+税 978-4-309-41926-8

〈幻の同居人妄想〉——
いったい何が起きているのか？

屋根裏に誰かいるんですよ——精神科臨床の現場で、ときにそういう訴えを聞くことがあるという。もっとも安心なはずの「部屋」という場所にあつて、だからこそ、これまでいたひとへの、あるいはいなかったってほしいひとへの、願望がかきたてられ、変形して妄想が肥大するのか。室内とは、懐かしくもおぞましい「脳」という不可解の、濃縮装置なのかもしれない、という……。

他社編集長から

精神を病んだ人はなぜ口を揃えて「屋根裏に誰かいるんですよ」と言うのか。なぜ床下ではないのか。日常が非日常に反転する快楽を味わえる。(早・山本)



「じっくり」
もう一冊!

春日武彦 『奇想版 精神医学事典』



歴史と戦略

永井陽之助

中公文庫 ◆ 本体880円+税 978-4-12-206338-9

中

他社編集長から
歴史通にして人間通の著者が、令和の読者のために遺してくれた珠玉の智慧のタイムカプセル。『失敗の本質』や『坂の上の雲』の読み方も変わりそう。
(早・山本)



「じっくり」
もう一冊!

📖 高坂正堯『平和と危機の構造』



山に生きる人びと

宮本常一

河出文庫 ◆ 本体820円+税 978-4-309-41115-6

河

他社編集長から
山と人の深遠な関係に踏み入る「宮本民俗学」の代表作。山で営まれる暮らしは興味深く、今では荘厳さすら感じさせる。山を見る目が変わる一冊。
(平・岸本)



「じっくり」
もう一冊!

📖 宮本常一『海に生きる人びと』

向こう側の世界の ロマンと実証

むかし平地民にとって、「山」は異界であった。そして同時に、木挽きや炭焼き、狩猟など、生活の場でもあった。そこに、怪奇幻想含め、信仰といった「出会い」が出現する。その「両者」の交渉が、実証的な裏付けとともに、かつ「ロマン」を排除することなく、じつに見事な読み物としてまとめられている。もう一つの『忘れられた日本人』とも言える代表作。



わかりやすさの罪

武田砂鉄

朝日文庫 ◆ 本体860円+税 978-4-02-262087-3

「他社編集長から……
 ちゃんと自分で考えてくださいよ、と言われている気がして胸が痛むが、考えなくない人か何に急かされているのかへの慮りも備えていて信頼できる。」(河・藤崎)



「じっくり」
もう一冊!

📖 橋本治『負けない力』

ロシア的人間 新版

井筒俊彦

中公文庫 ◆ 本体1,100円+税 978-4-12-207225-1



何が彼らを突き動かすのか？ 碩学が魅了されたロシアの魂

ロシアは今日、世界の話題である——。まさに今の状況にも読めるが、本書が最初に刊行されたのは一九五三年。著者は、一九世紀ロシア文学の発展史を通じて、その深奥にひそむ根源的人間性に迫る。浮かび上がる「ロシア的なるもの」には、現在も古びない普遍性があり、限られた情報しか得られなかった時代の、慧眼に驚かされる。若き著者の情熱的な書きぶりも、一読の価値あり。

「他社編集長から……
 文芸批評に徹することで隣国の他者を理解する、そのアプローチは今日却って新鮮。ロシア精神のもつ終末観がマルクス主義に通じるという指摘に驚く。」(角・伊集院)



「じっくり」
もう一冊!

📖 中山隆志『一九四五年夏 最後の日ソ戦』

朝日新聞出版

〒104-8011
東京都中央区築地 5-3-2
TEL : 03-5541-8757
<https://publications.asahi.com/>

KADOKAWA

〒102-8177
東京都千代田区富士見 2-13-3
TEL : 050-1744-2172
<https://www.kadokawa.co.jp/>

河出書房新社

〒162-8544
東京都新宿区東五軒町 2-13
TEL : 03-3404-1201
<https://www.kawade.co.jp/>

中央公論新社

〒100-8152
東京都千代田区大手町 1-7-1
TEL : 03-5299-1730
<http://www.chuko.co.jp/>

早川書房

〒101-0046
東京都千代田区神田多町 2-2
TEL : 03-3252-3111
<https://www.hayakawa-online.co.jp/>

平凡社

〒101-0051
東京都千代田区神田神保町 3-29
TEL : 03-3230-6570
<http://www.heibonsha.co.jp/>

本フェアについてのご意見や
次回へのご希望はこちらへ

〒100-8152

東京都千代田区大手町 1-7-1

中央公論新社 文庫編集部

教養文庫コラボフェア係

FAX : 03-5299-1943

最新情報はこちら

